

岩手県職労

月2回刊=1607号
2022年8月15日 発行
発行日 毎月15日30日
発行所
盛岡市内丸10番1号
岩手県庁内
岩手県職員労働組合
印刷所
盛岡市上田二丁目17-4
有限会社 ジョー印刷企画
一部 40円
組合員購読料は組合費に含む

地公共闘 定年延長、9月議会提案へ 勤務意欲確保・再任用処遇改善は任命権者ごとに協議

岩手県地方公務員共闘会議(議長:佐藤工(岩教組))は8月1日、県職労は8月5日、9月議会に条例提案予定の「定年年齢の段階的に引上げ」について、千葉総務部長と交渉を行った。交渉では、地公共闘が制度導入を求めていた高齢者部分休業制度について、定年引上げと同時に施行する考えが示された。



▲高齢層職員の勤務意欲策等の回答を求め交渉する地公共闘交渉団



▲回答する千葉総務部長(左)

総務部長交渉の結果の概要は次のとおり。
【高齢層職員の勤務意欲】
定年引上げ後の60歳以上の給与は、現在の再任用職員の給与水準と比較して、年収ベースで100万円程度の増額となる。これと併せて、より一層の対応を、これまで同様、個々の職員の状態を勘案し、勤勉手当評価における配慮など、それぞれの職制や職種に応じた取り組みを行っていく必要がある。何か工夫できることはないかという視点を持って、

各任命権者において、
【高齢者部分休業制度】
高齢者部分休業制度は、高齢期を迎える職員が、加齢による諸事情への対応、地域ボランティア活動への

【勤務意欲の確保】
人事評価の枠組みは60歳未満と同じだが、60歳以降に求められる役割等を踏まえれば部下等へのアドバイスによる職場への貢献を加味するなど、評価の視点は一部異なることも出てくるものと考えている。
【再任用職員の処遇改善】
60歳から65歳の間で定年前の職員と暫定再任用職員

【再任用職員の処遇改善】
今後、再任用制度から暫定再任用に移行する中で、

【再任用職員の処遇改善】
今後、再任用制度から暫定再任用に移行する中で、

最終局面 県職労総務部長交渉 再任用職員の賃金格付け見直し 職場課題等、運用面は継続課題として交渉継続

県職労は、任命権者としての総務部長の見解を質し、60歳以降も安心して働ける職場環境の実現を求め交渉を行った。交渉結果の概要は次のとおり。
【勤務意欲の確保】
人事評価の枠組みは60歳未満と同じだが、60歳以降に求められる役割等を踏まえれば部下等へのアドバイスによる職場への貢献を加味するなど、評価の視点は一部異なることも出てくるものと考えている。
【再任用職員の処遇改善】
60歳から65歳の間で定年前の職員と暫定再任用職員

【定数】
次期定員管理計画においては、定年引上げによる職員構成の変化と、今後の業務量の変化や見通しをうまく連動させ、適正な定数管理をしていく必要がある。公務運営ができなくなるこ



▲総務部長交渉に臨む県職労交渉団

【人事異動】
基本的には、現行の再任用職員と同様に、人事ヒアリング等を通じて、職員の希望業務や勤務地を個々に把握しながら、各部署と調整を行い、配置や業務内容を検討していく。職場が求める人材や、個別事情、体力等も異なるため、職場、職員ごとに個別対応する。

【安心して働き続けられる職場づくり】
第57回青年婦人部定期大会をWEB開催
県職労青年婦人部は8月6日、第57回青年婦人部定期大会をWEBで開催した。小田嶋中央執行委員長から、「県職労の中で青年婦人部はひとつの大きな機関

【安心して働き続けられる職場づくり】
第57回青年婦人部定期大会をWEB開催
県職労青年婦人部は8月6日、第57回青年婦人部定期大会をWEBで開催した。小田嶋中央執行委員長から、「県職労の中で青年婦人部はひとつの大きな機関

【安心して働き続けられる職場づくり】
第57回青年婦人部定期大会をWEB開催
県職労青年婦人部は8月6日、第57回青年婦人部定期大会をWEBで開催した。小田嶋中央執行委員長から、「県職労の中で青年婦人部はひとつの大きな機関

【新型コロナウイルス感染症による
じちろう団体生命共済の請求について】
新型コロナウイルス感染症に感染し、医師や保健所等の指示により自宅療養した場合、陽性判明日を入院の開始日、保健所または医療機関から指示された療養期間の最終日を入院の終了日とみなして「病氣入院共済金」のお支払いの対象となります。
※保健所が発行した自宅療養証明書等
現在、医療従事者や保健所等の方々の事務負担を考慮し、宿泊療養又は自宅療養の期間が厚生労働省の療養解除基準に準じた期間の範囲内であれば開始日の証明に基づき共済金を支払う取扱いとしています。
マイハーシス(My Her-Sys)でご請求いただく場合は、「画面を印刷」し、「共済金支払請求書」、「新型コロナウイルス感染症入院・療養申告書」、「個人情報取得・提供に関する同意書」をご提出ください。
不明な点は各支部書記局までご連絡ください。

【安心して働き続けられる職場づくり】
第57回青年婦人部定期大会をWEB開催
県職労青年婦人部は8月6日、第57回青年婦人部定期大会をWEBで開催した。小田嶋中央執行委員長から、「県職労の中で青年婦人部はひとつの大きな機関

【安心して働き続けられる職場づくり】
第57回青年婦人部定期大会をWEB開催
県職労青年婦人部は8月6日、第57回青年婦人部定期大会をWEBで開催した。小田嶋中央執行委員長から、「県職労の中で青年婦人部はひとつの大きな機関



▲参加者で笑顔の記念撮影

7月29日～31日にT.O.C 有明において第23回自治労 青年女性中央大交流集會が

全国の仲間との交流から気付きへ！

第23回自治労青年女性中央大交流集會開催

開催され、岩手県職労から2人が参加した。はじめに川本実行委員長から、「他地域で起きている課題は、その時は関係ないと思っても、やがて全国に広がる。課題解決のヒントは本集會の討論にある」とあいさつがあった。

1日目の基調講演は、東京大学齋藤幸平准教授から、市場に任せきりでは成り立たない現代社会の現状を説いた。永遠の経済成長などあり得ず、「脱成長」の視点が必要との提起

2日目は、職種別分散会を行った。一般職員が水産と農村整備を兼務し、技術職と同じ技術を求められている実態や仕事のミスで人事評価を下げられ、昇給抑制されている実態、週休日の振替がとれない場合に、超過勤務手当が支払われることなく、休日出勤していないことにされる実態等が

3日目の記念講演は、防衛ジャーナリストの半田滋氏が、「日本の安全保障政策について講演し、安倍元首相による「台湾有事は日本有事」との発言について、米軍が台湾有事に関われば、米軍は、沖縄にある米軍基地から出撃し、沖縄は戦争に巻き込まれるとの説明があった。戦争が起きた際に、一斉に避難用の数千台のバスや航空機等用意することできない現状から、「戦争を行きたくないこと以外に国

民を守る方法はない」と訴えた。国民保護計画は、国ではなく、自治体がつくることになっている。自治体で働く自分たちが取り繕わ

3支部独自要求の定着を

7.27釜石支部定期大会

釜石支部は7月27日、定期大会を開催した。菊池支部長から、「コロナウイルス感染者が急増する中であるが、何とか定期大会の開催ができた。昨年度は、沿岸局としては初めて3支部と連携して局長へ



▲釜石支部の定期大会の様子

あるのは知ってるけど…見たことある？

県職労ホームページ

県職労ではホームページを開設し、これまでの組合活動のほか、機関紙、赤枠も掲載しています。

休暇制度や処遇などの情報が詰まった組合員必携は、通勤手当や住居手当の算出方法、いつどんな休暇が何日取れるかも載っており、一人で調べたい時に便利！ぜひ活用ください。

URL: <http://www.iwatekensyoku.or.jp/>

組合員限定ページはIDとPWが必要です。組合員に加入して、IDとPWをゲットしよう。書記局にお問い合わせください。

各評協議会

独自要求に向け意見交換

宮古児相・執務環境良くも課題増



▲7月14日に行われた児相相談所分會での意見交換の様子

各職域における人員体制の確保、職場環境改善等に向けて、各評協議会での独自要求の取り組みを進めていく。県職労方針のもと、例年7月～9月にかけて各支部単位で職域別の意見交換会を開催している。

今年度も、昨年度における要請書や取り組みの到達点を確認し、今年度の職場体制状況、コロナ対応をはじめ、新たな職場課題など、意見交換を通して集約し、秋の確定闘争と並行して行政が円滑に運営できる組織強化等に関する要求・交渉を進めていく。

宮古支部・宮古児相相談所分會は7月14日、児相相談所等体制強化に向けた意見交換会を開催し、昨年度の取り組み状況をもとに職場課題の集約を行った。

た、任用前研修が4月以降に開催されるため、異動後、不安を抱え従事した。○児童福祉司や児童心理司が出張中、一時保護対応も主事が担い負担を強いているが特殊勤務手当がない。○緊急時に対応しなければならぬこともあり、休みたくても休めない。当直明けの休暇も年次で対応している実態。

7月23日、自治労県本部主催の会計年度任用職員組合員交流会がエスポワールいわてで開催され、県内各単組から20人(県職労7人)が参加した。

「仲間づくり」

は大事な組合活動

はじめに主催者を代表して県本部伊藤委員長から「会計年度任用職員は組織化して日が浅い。労働組合を知るところから始めよう」とあいさつした。

「組合の活動が知られていない。組合の存在感を示すようなアピールが必要」などの意見がだされた。参加者からは、「参加した事が自分にとってプラスになり、思いを新たにできる良い機会となった」と感想がよせられた。



▲講演の後グループごとに意見交換を行った

【お詫びと訂正】

7月30日号機関紙1面「若柳よしあき」五期当選果たすの記事で、タイトルが「若林よしあき」となっていました。訂正は「若柳よしあき」でした。お詫び訂正します。